

二 道路

(一) 徳島自動車道

1 美馬ICと井川池田ICの開通

徳島自動車道・美馬と井川池田間(二一・一キロメートル)が開通したのは平成十一年(99)三月三〇日午後三時からであった。「徳島自動車道の開通状況」(『徳島新聞』平成十一年三月三一日)にみるように平成六年(94)三月藍住ICと脇町IC間三二・一キロメートルがまず開通し、翌年八月徳島まで伸び、平成九年(97)一二月には美馬ICに伸び、美馬ICと井川池田IC間七三・八キロメートルが全通し、徳島と池田間が一時間二〇分で結ばれることとなった。

美馬と井川池田間の用地費を含む総事業費は一〇七八億円で、一キロメートル当りの費用は約五一億であった。道路公団は美馬と井川池田間の通行量を一日約五〇〇〇台と見込んでいる。通行料金は、井川池田と徳島間二〇五〇円、藍住間一八五〇円、脇町間一〇〇〇円、美馬間七〇〇円となっている。

美馬ICと井川池田IC間は四車線設計となっているが、当分の間対面二車線となっている。規制速度は七〇キロメートルである。

表3-70 徳島自動車道の開通状況

(徳島市—愛媛県川之江市間95.3キロメートル)	
94年3月	藍住IC—脇町IC間(32.1キロメートル)
95年8月	徳島IC—藍住IC間(9.1キロメートル)
97年12月	脇町IC—美馬IC間(11.5キロメートル)
99年3月	美馬IC—井川池田IC間(21.1キロメートル)
00年3月	井川池田IC—川之江東JCT間(21.5キロメートル)
【徳島新聞】(1999年3月31日)等による	

2 開通式

開通式は平成一一年(99)三月三〇日午前一〇時から井川町西井川の井川池田ICで行われた。主催者は道路公団四国支社長、来賓として徳島県、沿線の美馬郡美馬町、三好郡三野、三好、井川の各町関係者、用地提供者等四〇〇人が出席した。

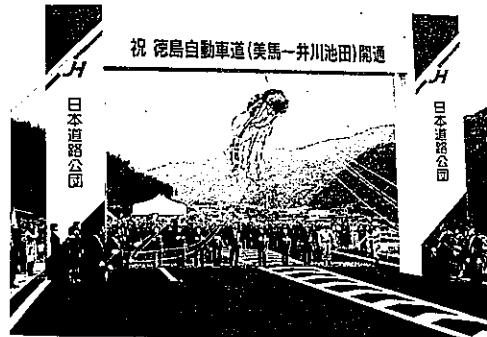
テープカット、くす玉割りの後、県警高速隊のパトカーを先頭にパレード、参加者を乗せた二〇〇台の車で美馬ICに向かった。一般供用は午後三時からであった。

3 井川池田ICの江東開通

井川池田ICから川之江東間の供用開始は平成一二年(00)三月一日からであった。総延長二・五キロ、井川池田ICから約二〇分で松山自動車道、高知自動車道に接続することとなった。

(二) 国道

井川町には国道三三二号と一九二号が通っている。総延長は六四三七キロ(平成一六年現在)である。国道一九二号は三加茂町との町境から池田町との町境まで吉野川に沿って東西にほぼ一直線に延びている。一部を除いて歩道はない。片側一車線である。国道三三二号は、平成一五年(03)三月四国中央橋が完成するまでは、井川町森の三好大橋から池田町境までの間、国道一九二号線と共用されていた。



開通式

徳島自動車道・井川池田ICの完成にともなって平成一五年(03)三月四国中央橋が完成した。これによって、国道三三二号は一キロが強西により、四国中央橋から池田町境までの二〇〇キロ弱が一九二号との共用になった。厳密に言えば国道三三二号は四国中央橋の中央付近、吉野川上の井川町と池田町の町境から南の百キロ余りが単独の三三二号である。

この四国中央橋の取合い口は井川池田インターと十字路をなしているため、国道幅は二五キロに広がられている。

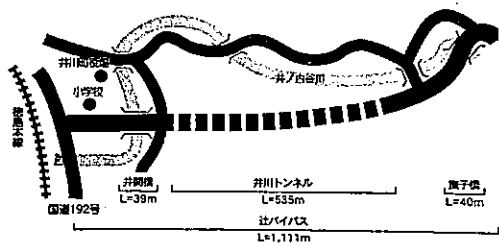
(三) 県道

県道は次の三路線が井川町内を通っている。

1 大利辻線(県道一四〇号)、池田町大利を起点とし井川町辻を終点とする一級河川吉野川水系井内谷川に沿う道路で辻地区から井内地区への幹線道路である。総延長三万二八キロである。

平成一二年(00)四国四県の高速度道路が全線開通し、多くの人が道路を使って井川スキー場腕山にアクセスするため、国道一九二号線から県道大利辻線への接続部(井川町岡ノ前、美濃田橋南)が渋滞し、又、辻地区から流堂間の狭く屈曲した道路の生活環境を改善する為、辻バイパス(総延長一・一キロ)の工事が施行された。

辻バイパスは国道一九二号の井内谷川の東側から堤防沿いに井関橋(三九



井川トンネル路線図

(三) 吉野川に架かる橋

吉野川には井川町と対岸の池田町および三好町を結ぶ橋が合計五本架かっている。

一本は昭和四年(29)に架けられた土讃線吉野川鉄橋であり、徳島自動車道の吉野川橋、そして美濃田大橋、三好大橋、四国中央橋である。

吉野川に井川町と北岸を結ぶ橋が架かったのは昭和三三年(58)の三好大橋が最初である。それまでは池田町の白地と中西を結ぶ三好橋「昭和二年(27)完成」と、賃取り橋として有名であり、祖谷への入り口でもあつ

た土讃線祖谷口駅前の山城町大川と池田町大利を結ぶ大川橋「昭和一〇年(35)完成」のみであり、他は渡し舟であつた。

井川町には渡し場として辻渡し場と布屋渡し、大具の渡しがあつたが昭和三四年(59)ごろ、三好大橋と美濃田大橋の架橋によって相ついで廃止された。

井川町誕生の年は吉野川交通が「渡し」から「橋」へと変わる、大きな変わり目の年でもあつたのだ。

1 三好大橋

国道三二号線と一九二号線の合流点、大具の渡しの跡にかけられた井川町大具と池田町州津を結ぶ国道橋である。昭和三〇年(55)一月から架橋工事にかかり、昭和三三年(58)に完成した。平行弦ケルバー鋼構橋で、全長二三六・四㊦、有効幅員一六㊦、工費一億七五九万円。通行量が多くなり、上流側に人道橋が併設された。平成一四年(02)には修理された。

平成一五年(03)井川池田IC出口に四国中央橋が完成し国道三二号線となり、三好大橋は県道となった。

2 美濃田大橋

吉野川を挟んで井川町と三好町を結ぶ。昭和三一年(56)着工、同三四年(59)二月完成した。長さ一四七・六㊦、幅三・六㊦のつり橋である。後に歩道が併設された。

すぐ上手に辻渡しがあり、井川町と三好町を結ぶ重要な役割りを持っていた。人々は食事時にお膳に箸がついていないと「おーい、膳が吉野川じゃ」と箸が出ていないことを、吉野川に橋のかかつていないことに掛けて皮肉ったと伝わるが、それも今は昔の語り草となり、渡しのあつたことはしだいに忘れ去られ

ている。

3 四国中央橋

国道三二号が一九二号に合流する三好大橋付近は平成九年(97)の調査で一日の交通量が二万二四〇〇台と混雑がはげしく、平成十一年(99)の徳島自動車道・井川池田ICの供用によって交通混雑が増すことが予測された。これを解決する為に池田町との町境の近くに四国中央橋が架けられた。

橋は五四八メートル、幅員は両端に三メートルの歩道を持ち、車道幅一四・五メートルである。
平成一五年(03)三月開通した。

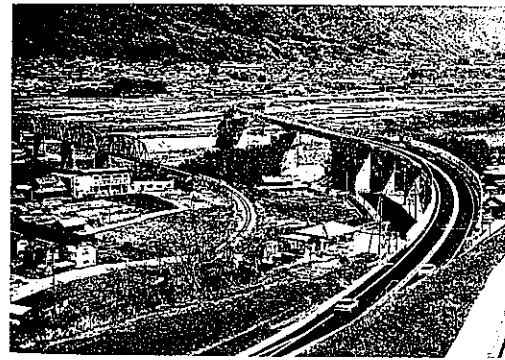
4 吉野川橋

徳島自動車道・井川池田インターチェンジから吉野川ハイウェイオアシス間の吉野川に架かる橋である。自動車専用橋であり、平成十一年(99)完成、供用された。

5 吉野川鉄橋

土讃線箸蔵～佃駅間の吉野川に架かる鉄橋である。大正十一年(一九二二)着工し、昭和四年(29)四月二十八日開通した。当時としては一大橋梁であった。

この鉄橋には作業道がついていた。鉄路の中央に製板が二～三枚敷かれただけのものであり、一般の人は通行が禁止されていた。



吉野川橋と吉野川鉄橋

しかし渡し舟に頼る人々にとっては、吉野川の洪水によって舟止めの時には通勤・通学の通路としての鉄橋を利用する人が多かった。多くの怪我人や死者も出たが、三好大橋や美濃田大橋の開通によって昭和三四年(59)ごろには利用しなくなっていた。